

4 日本語教員養成課程

■ 1. 日本語教員の養成について

(1) 日本語教員養成課程とは

日本語を母語としない人に、外国語あるいは第二言語として日本語を教える教員を「日本語教員」と言います。「日本語教員養成課程」は日本語教員としての専門知識と教授能力を身につけることを目的として設置されています。

(2) 日本語教員の養成

日本国内では、日本語教員の養成は以下のような機関で行われています。

- (a) 大学の日本語学科
- (b) 学科とは別に設けられた大学の日本語教員養成課程
- (c) 各種学校等における日本語教員養成課程
- (d) 大学院における応用言語学専攻、言語教育専攻など

本学の日本語教員養成課程は、このうち (b) に該当するものです。

■ 2. 日本語教員養成課程について

(1) 履修について

日本語教員養成課程は、課程登録をした学生のみ履修することができます。課程登録は2年次に行い、2年次から4年次までの3年間で履修します。課程登録人数は、年度毎に30人程度とします。

(2) 日本語教員養成に関する科目

「6. 日本語教員養成に関する科目」として必要な単位を履修してください。

なお、「日本語教育実習」は、所定の単位を取得した4年次生を対象に学外の日本語教育機関で実施します。

(3) 修了について

所定の単位取得者には、卒業の際に「修了証書」を授与します。

在学中に所定の単位を取得できなかった場合には、卒業後に、必要な授業科目の単位を、科目等履修生として履修することができます。詳細については『科目等履修生募集要項』で確認してください。

(4) 資格について

日本語教員には、中学校教諭・高等学校教諭のような「免許」による資格はありません。

1. の (2) に挙げた「日本語教員の養成」は、日本語学校等の教育機関で日本語教員を採用する時に求められる「条件」としてのものです。このほか、公益財団法人日本国際教育支援協会が毎年1回10月に実施している「日本語教育能力検定試験」があります。日本語教員の採用には「日本語教育能力検定試験合格」が条件とされる場合があります。

■ 3. 日本語教員養成課程の履修について

(1) 登録とガイダンスについて

日本語教員養成課程の科目は、課程登録をしないと履修することができません。課程登録は2年次に行います。

登録方法はすべてガイダンスで詳しく説明します。ガイダンスに出席した場合のみ課程登録の申し込みができます。ガイダンスの日程は「資格課程専用掲示板」に掲示します。必ず掲示板でガイダンスの確認を行ってください。

(2) 登録の手順

1年次の1月に課程登録のためのガイダンスを行います。このガイダンスに出席した人は、課程登録の申し込みができます。このほか、2年次と3年次の1月にもガイダンスがあります。すべてのガイダンスに出席した人は、4年次の4月に日本語教育実習参加登録ができます。

2年次に行う課程登録の手順は以下のとおりです。

- (a) 登録希望者は、ガイダンスで配布する申込書に必要事項を記入し、資格教育課程課に提出してください。
- (b) 申込書を提出した学生を対象として選考を行い、結果を発表します。選考は、1年次の総合成績・1年次の外国語科目（二ヶ国語以上）の成績・各種検定試験（漢字検定、TOEIC[®]等の英語検定等、日本語能力試験等）の取得状況等に基づいて行います。詳細はガイダンスで説明します。
- (c) 登録を許可された学生は、「日本語教員養成課程履修登録費」20,000円を納入してください。
- (d) 課程登録が完了すると、「日本語教員養成に関する科目」が履修登録できるようになります。

(3) 日本語教育実習について

4年次に学外の教育機関で日本語教育実習を行います。

教育実習のためのガイダンスを2年次に1回、3年次に1回、4年次に2回程度行います。すべてのガイダンスに参加した学生のみ実習を行うことができます。

4年次の4月に日本語教育実習の登録を行います。3年次までに所定の単位を取得した学生が日本語教育実習の登録を行うことができます。登録の方法については、3年次1月の「日本語教育実習ガイダンス」で説明します。実習登録の手続きを行った上で「日本語教育実習費」を納入してください。

実習校は、本人の希望と3年次までの履修状況の審査等により、決定します。

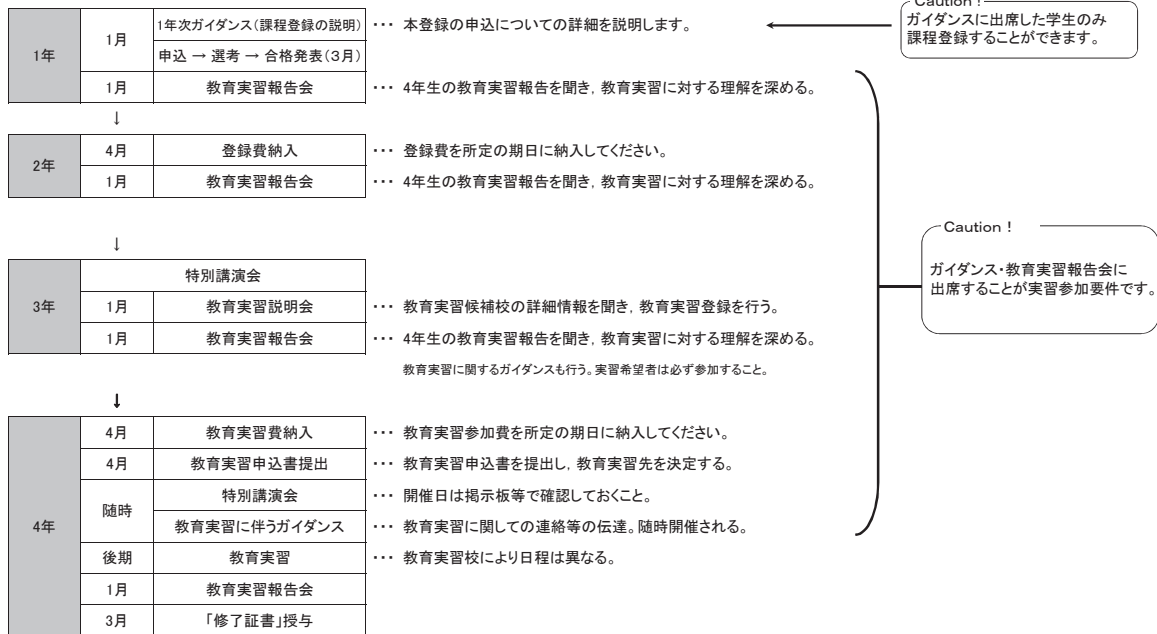
ガイダンスの他に、3～4年次に「特別講演会」を行います。日本語教育実習に参加を希望する学生は、ガイダンスと「特別講演会」に必ず出席してください。

■ 4. 年間計画

日本語教員養成課程を修了するには、必要な単位を修得することはもちろん、ガイダンス等にすべて出席し、必要な手続きを行うことが必要です。以下のスケジュールを参考に、掲示板（8号館横の資格教育課程専用掲示板）でガイダンス等の日時・場所を確認してください。

やむをえない理由でガイダンス等を欠席する場合、急病・事故等の場合には、資格教育課程課に事前連絡をしてください。

日本語教員養成課程 履修の流れ



■ 5. 日本語教員養成課程指導室について

日本語教員養成課程を履修する学生のために、日本語教員養成課程指導室（17号館4階432室）が設置されています。

日本語教員養成課程指導室では、① 履修に関する指導・アドバイス ② 図書・雑誌等の閲覧・借出 ③ 授業での課題準備 ④ 実習準備に関する指導・アドバイス ⑤ 教材研究に関する指導・アドバイス ⑥ 日本語教員の採用・公募の情報提示等を行っています。気軽に立ち寄ってください。

■ 6. 日本語教員養成に関する科目（2018年度入学者から適用）

区分	1年次		2年次				3年次				4年次				修了 要件 単位数			
	1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター		5セメスター		6セメスター		7セメスター			8セメスター		
	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位		授業科目名	単位	
言語			言語学概論	○2													6	
			現代日本語学(音声)	○2														10
			現代日本語学(文法)	○2														
			●現代日本語学(語用論)	×2	●現代日本語学(談話分析)	×2												
					現代日本語学(意味・語彙)	×2												
					対照言語学	×2												
			統語論	×2	統語論	×2												
			意味論	×2	意味論	×2												
			音声学 I	×2	音声学 II	×2												
言語と教育									日本語教育学 I	○2	日本語教育学 II	○2	●日本語教育実習指導	○2	●日本語教育実習	○2		14
									●日本語教育学 IV	○2	●日本語教育学 III	○2						14
									●日本語教育学 V	○2	●日本語教育学 IV	○2						
											●日本語教育研究	2		●教育学	2			
社会・文化・地域			●日本語教育事情	×2	●日本語教育史	×2												2
	日本思想史	2	日本文化論(近代文学)	2	ラテンアメリカ現代研究 I	2	▲地域の国際化と教育	2	アジア政治	2	アジア政治史	2						
	日本文化論(古典文学)	2		国際法 I	2	ラテンアメリカ現代研究 II	2	ラテンアメリカ研究 II-1 (地域事情)	2	ラテンアメリカ研究 II-2 (地域事情)	2							
			(湘)現代社会論	2	国際法 II	2	(湘)国際関係論	2	開発経済学 I	2	開発経済学 II	2						
言語と社会					社会言語学	×2					●言語政策論	×2						2
	(湘)国際コミュニケーション	2	(湘)国際コミュニケーション	2	▲ボランティア活動論	2	▲人権教育	2	横浜学 II	2	横浜学 I	2	異文化間コミュニケーション論A	2	異文化間コミュニケーション論B	2		4
	(湘)異文化間コミュニケーション	2																
		(湘)ボランティア論	2	(湘)ボランティア論	2													
言語と心理			言語習得論A	×2	言語習得論B	×2												2
	(湘)心理学	2	(湘)心理学	2	認知心理学	2	生涯発達心理学 II	2	コミュニティー心理学	2								4
			生涯発達心理学 I	2														

〔備考〕

- 印は必修科目，×印は選択必修科目です。また，●印は日本語教員養成課程の科目，▲印は社会教育課程の科目，(湘)は湘南ひらつかキャンパスの開講科目です。
 - 印の日本語教員養成課程の科目と▲印の社会教育課程の科目については，各学科において定められている各セメスターの履修登録単位数を超えて履修することができます。
 - 日本語教員養成課程の科目を履修するには，2年次生又は3年次生での本登録が必要です。（4月初旬）
 - 「日本語教育実習」を履修するためには条件があります。原則として必修科目16単位，選択必修科目4単位を取得し，当該年度内に卒業見込み・課程修了見込みであることです。
- * 配当期は原則とする。